

上  
伊香保  
温泉名所旧跡

全

K2  
J

201262



K 295.1  
J 25

諸温遊記  
國島鹽



上州伊香保

温泉新田跡

万葉歌集編

浴衣

扇

干支也

薫風

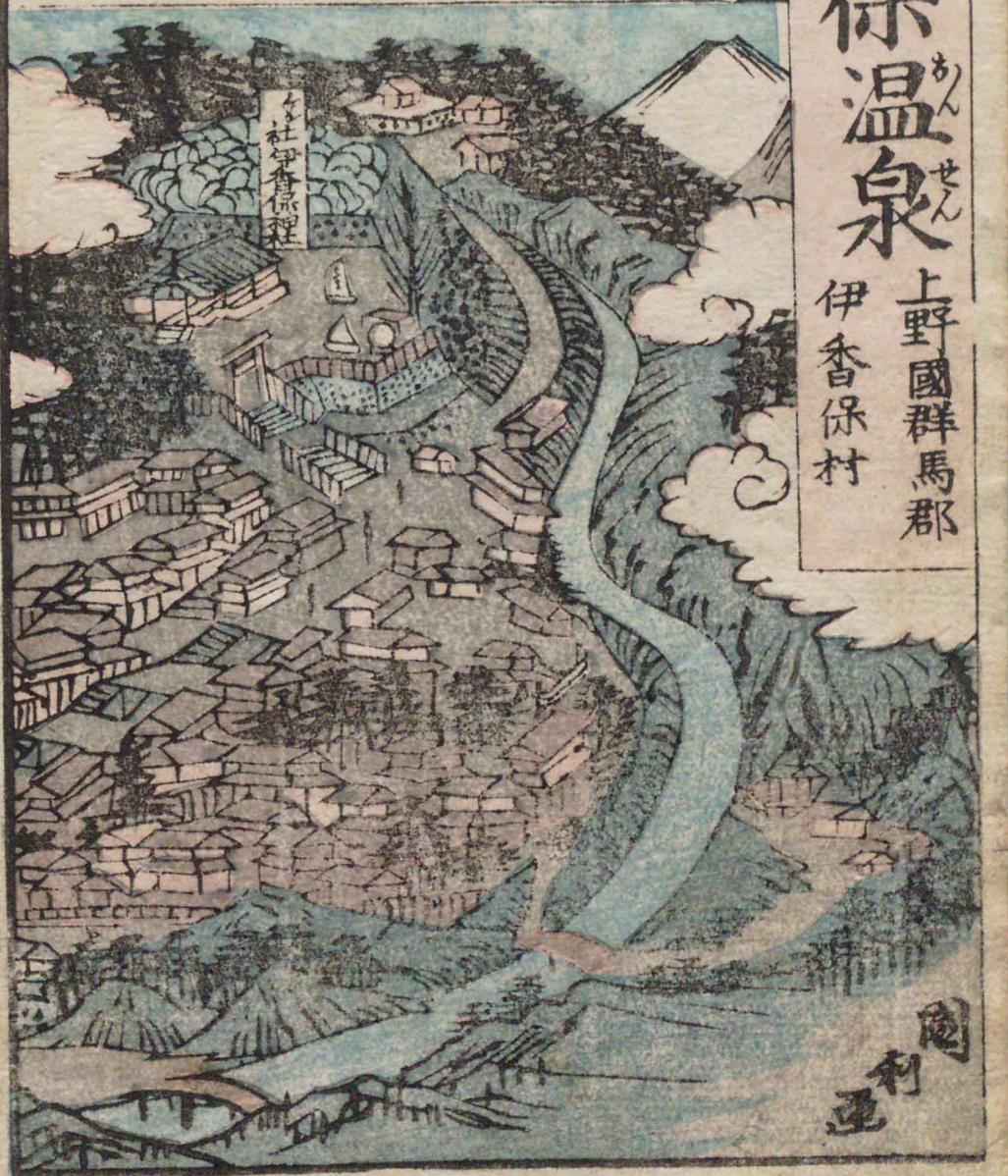
万葉歌集



# 伊香保温泉

上野國群馬郡  
伊香保村

當所の温泉は  
素仁天皇の御宇  
より諸人入浴して  
諸病を癒ゆると  
あり年々益上り  
功徳ひろまじしが  
近年又泉樂の  
名振ありてより



利國  
運

更子婦女子の  
身不獲一ゆる  
どの川と郡  
の男女陸阻を  
去のた此所は  
保養しと健  
康は得まる  
者殆んど  
あまき名  
湯あり

温泉場全景



伊香保

○温泉功紙 外拆表畧

あいのしみ	レイマチス	血の不足	神経病	ひまの病ひ
手足の赤れ	の不せ	ひふの赤み	月水不順	みゆ入浴の功
せんき	子宮病	筋骨のしみ	せん白	よく温泉を種
じん病	せうかち	痔瘻の	きんさう	と服用され
うち身	ムトキ	腫瘍	かつけ	ハ的である
				著しとあり

○入浴法同く服量

温泉の温度の暖計百七度より百七十八度とよりと一若熱く

とゆ水と入浴て業外を著くまはううは教冷して入浴べー  
 老人より衰弱者へ一日一夜少壯者へ二夜と極量とまはー  
 殺入浴を極量と思ふの素人等も病ひのさあは及つて  
 あし且沐浴所ある十分より十分を長く居るべし  
 食後まぐよ入浴べしうう毛をさるる身体をよく拭拭て清潔なる  
 衣類と着べー○内服量の一袋十六丸より多く服むべし  
 若多量服んと思ふおの十六丸だけ服と静に運動して後  
 服むべーさをもなれば吐瀉と僅一痛ひのさあは及つて  
 ううむ且患者よりよく尋問まはー○食後の餘り運動  
 まはー食物の滞ぬの極くさるる○嗜好鮮魚など有とも  
 暴食驟飲は許しとまはー○夜更浴もさるる

岸又左郎

○温泉宿姓名

木暮八郎

頁連三梅澤左平治 福田善十郎

大崎甚左郎

萩原清四郎 戸塚忠吉 石坂泚五郎

崎田平八郎

富所政吉 福田一郎 森田与三郎

岸權三郎

安友仙助 袋木忠藏 萩原小一

木暮金左郎

真淵然造 吉江友吉 八木云六

岸六左衛門

龜里三川 安友新七 横手金七

寺崎金四郎 角田權三 田胡常吉

森田秀吉 佐友左郎清 大河原常吉

木暮武左郎

金田比平 中次左郎平 羽鳥善吉

永井喜八郎

萩原傳七 赤卷小平 若井殘八郎

後雨八十松

塚越七平 佐友左郎 木村以三

千明三郎

萩原重光 清楚林藏 森田庄光

崎田清郎

田村さ雪 福島新造 後雨友吉

福田金七郎

田中文二郎 金井市右郎 高橋留吉

崎田多朔

宮下彦左郎 町田市右郎 坂塚淺八

養田友吉 宮下七以 將雄猪吉

福永文左郎 山岸安六 石川忠四郎

飯塚の孫 泚沢清吉 高橋林光

# 名産

○湯花 ○温泉漆木綿真綿 ○温泉の化石燧燧石  
 其他敷品 ○髪洗土 ○粉一の粉 ○挽物細工 ○氷豆腐  
 ○氷蕎麦 ○湯ざらし蕎麦 ○湯ざらし艾 ○湯本焼お  
 ○鏡ふたの粉 ○雑木ステッキ ○彫盆 ○ちまの枝 ○ちまの  
 組木 ○構 ○箒 ○糸寒 ○下駄 ○枝折 ○八景かん  
 ぎし ○伊香保の香 ○塗物 ○黒揚枝 ○氷 ○麩 ○鮎  
 ○鯉 ○鮎 ○鱒 ○鰻 ○茸 ○うど ○せんまゝ ○落 ○蕨  
 其外敷多ゆりといふとも畧を



伊香保神社  
 例祭  
 毎年  
 九月  
 十九日

東京伊香保(里程)

日本橋 二里十五丁ヨ

板橋 二里十五丁ヨ

浦和 二里九丁ヨ

大宮 二里十八丁ヨ

上野 二里五丁ヨ

尾花 二里一丁ヨ



湯元不動  
紅葉菴

紅葉菴  
主人  
仙果子  
近年此処多  
二岳へ便理の  
近々をゆく

春名山	二里半
日光山	二十六里
華津	十三里
東京	二十四里
伊香保	諸方へ里程
伊香保	
渋川	水津
二里半	二里半
金古	柏木
二里半	一里半
本多	迫り



高崎	倉が野	新所	新庄	深谷	熊谷	渋川の	捕川
二里廿四丁ヨ	一里八丁ヨ	一里廿六丁ヨ	二里六丁ヨ	二里廿九丁ヨ	二里廿八丁ヨ	四里十六丁ヨ	一里二十五丁ヨ

伊香保の八景



水沢寺みづさわ 伊香保姫の傳いかけほねのつたへ  
 推古天皇の討高麗左大将すいこてんおうのうちたかりやまひだりだいらい  
 家成とて又官人なり事故いけがけとてまたくわんにたりことごと  
 ありて高麗は備せられ深たかりやはたかにはつちまはせられふか  
 瀬の字は極々妻君一男せのなはたきくまきみいっぴやう  
 之女を養へて身まかり一由衣このをやしやへてみまかりいゆい  
 松原の縣士某の妹と後妻まつはらののゑんしあるかのあねとあとつま  
 ありとて一不物鬼の妻とせありとていぶつおにのつまとせ  
 ち此の家成之女後妻不ちこのいけがけのむすめあとつまふ  
 あがけて長子家定とて休あがけてちがしやいけがけとてやす

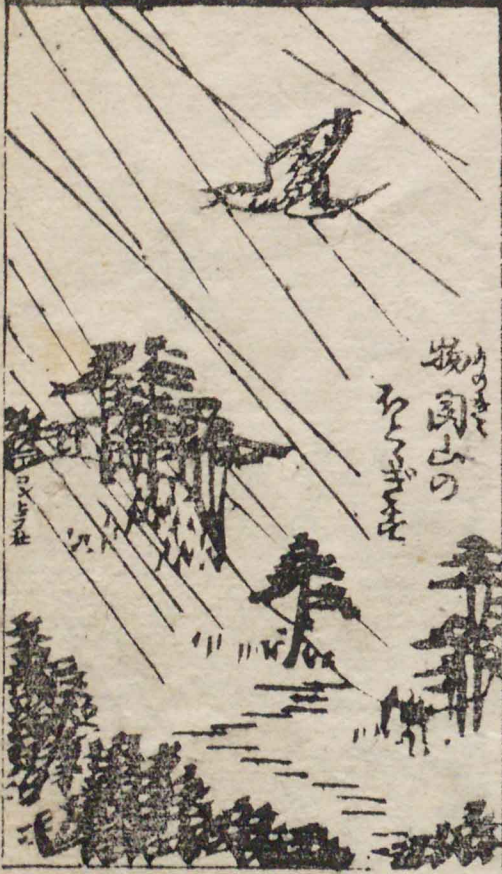


妙義山	九里
善光寺	廿五里
冨岡	九里
菊橋	六里
音傍	六里
相生	九里
沼田	七里
浮波	七里
四萬	九里
二ツ嶽	三十丁
湯先不動	七丁
向山	





南に下りて 此の山に  
繼母の女をよき 婿を  
えりて 二女と長妻川に沈  
めて 殺し 控事の 伊勢保  
をも 殺さんと 志をく 針り  
けれども 此の 娘は 実母の 色  
を 見し 千を 幾喜の 小僧と  
守袋より けり 肌必と 殺  
さぬが 中人 此に 獲よ 上の  
死地と 免う 是 伊勢保村の  
湯戸 赤の 家より 身と 悲び



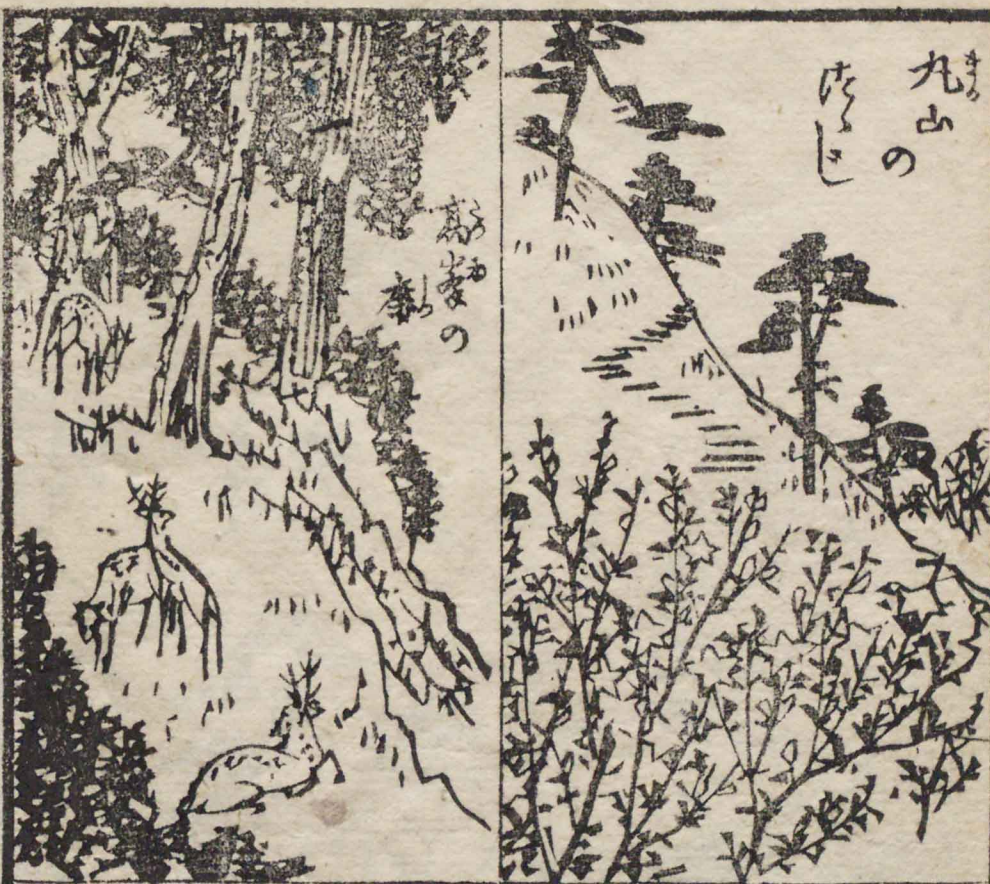
て 居りて 大愛と 南に 下り  
らせし 娘は 此に 父家 成り  
まうし 後を 見れば 兄の 家  
月あり 老下 向し 七 継母と 里  
方へ 離別し 湯戸の 家族  
へ 謝礼と せむし 此の 所の一  
家と 南に 下り 引まとい  
娘を 官人 志光の 妻と せし  
く 娘へ 伴の 守佛と あり  
て 父母と 娘の 苦擲の あり  
一字と 違えん 正と 禁座



伊勢探娘の向跡

若所の由いよなり  
去書の傳紀よるなり

九山の  
たじ



九山の  
たじ

傳正より物みりれを傳正  
その孝を感とて 孝は  
へんより 積会城のよみ  
その孝佛と本考とあせ  
しる元より 靈發のよ  
ある佛佛をれを緒人へ  
利益とつたふりさ  
なぐり 慈母の如くありと  
今坂東願礼身十六番ふ  
徳山水沢寺の具場する  
をち見あり



伊香保の富士



不入の滝  
水沢寺より  
一里山奥あり

五徳山水澤寺



寺納 應受

松木みも

せうご

まごも花

さうん

伊香保よ

まいた山の

水澤

飯細大権現

千手堂

奥の院山道

弘法大師

念佛堂

おまの  
修善保那の  
守佛よて千手  
観音よて東願礼  
弟十六高の礼あり



黒髪山

夕まきよ波ひ

り多さる

黒くみの

山まき

山まき

内

松

伊香保

山人



子持山

石成つりま

かのたども

かまのり

男まのり

玉持

山持

万葉巻



榛名山

山

天の

山

山



群馬の馬

大

松

春

山

長坂

平

と

今

明治十二年

七月二十日

皇太后宮

伊香保の途中  
沼川村の松下は憩いせ

博房御所需て  
新碑を立て是を  
御影の松と称嘆す

○  
皇太后宮大夫  
万里小路博房御

○  
皇太后宮大夫  
万里小路博房御

尹香呆



御影の松

御影の松

浴室空用心



相州  
上州

温泉遊覽記

府縣賣捌所

相州湯本 小川万右工門

上州熱海

同 修善寺 柏屋勇三

上州伊加保 廉盟 舍

上州草津 山本十一郎

御届明治十五年五月三日

東京下谷西町三番地

编者 服部應賀

芝之島町 山中市兵衛

蛸壳町二丁目 善林喜兵衛

通三丁目 小林鉄次郎

馬喰町二丁目 吉田小吉

横山町二丁目 辻岡文助

東京神田鍛冶町六番地

版元 長谷川忠兵衛



5.1  
5

群馬県立  
図書館

紙  
の  
十  
五  
冊  
木